

特集

転倒発生における外的要因のマネジメント

特集に寄せて

澤 龍一

順天堂大学保健医療学部理学療法学科

総務省の最新の人口推計によると、日本の高齢化率は29.4%と過去最高を更新しました。これは世界でも類を見ない高水準であり、「高齢化先進国」として、私たちは喫緊の課題に直面しています。特に、75歳以上の後期高齢者の人口は増加の一途をたどり、その傾向は今後も続くと思われています。

高齢期の生活において、転倒は単なるアクシデントでは済まされません。骨折や寝たきりにつながり、生活の質を著しく低下させる極めて重要なリスクです。一般的に、転倒は個人の内的要因（身体機能など）と外的要因（環境など）が相互に作用し合うことで発生します。

加齢に伴う身体機能の低下、つまり内的要因の変化は避けられません。特に75歳を超えると、運動などによる機能維持の努力は困難を伴う場面が増えることを、現場の専門職の皆さまは痛感されていることでしょう。

このような状況下で、私たちが転倒予防の取り組みをより実効性のあるものにするためには、「誰でも、今から修正できる」側面に焦点を当てることが不可欠です。それが、ご本人だけでなく、家族や介護者、周囲の人々の働きかけでリスクを下げられる可能性を秘めた「外的要因のマネジメント」という視点です。

本特集では、この視点に基づき、第4回目の企画として「転倒発生における外的要因のマネジメント」をテーマといたしました。

外的要因の中でも、日常的に接する機会が多く、かつ介入の余地が大きい以下の4つの要素に焦点を絞り、各分野の専門家にご執筆をお願いしています。

- ・ 溝神文博（国立長寿医療研究センター薬剤部 / 長寿医療研修部高齢者薬学教育研修室）：薬剤と転倒
- ・ 平石卓朗（群馬医療福祉大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）：靴・履物と転倒
- ・ 橋本美芽（東京都立大学大学院人間健康科学研究科）：居住環境と転倒予防
- ・ 大島賢典（国立研究開発法人産業技術総合研究所）：転倒とテクノロジー

（敬称略）

この特集を通じて、ご本人を取り巻く「環境」を一つひとつ点検し、多職種連携やご家族の協力のもと、転倒リスクをマネジメントしていくための具体的な方策や新たな気づきが得られることを期待しております。

この一冊が、高齢者の安心・安全な生活を支える活動の一助となれば幸いです。

連絡先：順天堂大学保健医療学部理学療法学科 澤龍一

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-2-12 御茶の水センタービル 5階

TEL : 03-3813-3111 (内線 3907) E-mail : r.sawa.ia@juntendo.ac.jp

受理日 : 2025. 9. 30